

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	A-139	13-052 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Changes in smoking for adults with and without alcohol and drug use disorders: longitudinal evaluation in the US population. アルコール関連障害、薬物関連障害の有無と喫煙状況の関連 ～アメリカにおける飲酒および関連状況に関する疫学調査より～		
執筆者		
Weinberger AH, Pilver CE, Hoff RA, Mazure CM, McKee SA.		
掲載誌		
Am J Drug Alcohol Abuse. 2013 May;39(3):186-93. doi: 10.3109/00952990.2013.785557.		
キーワード		PMID
アルコール関連障害、薬物関連障害、禁煙率		23721534
要 旨		
<p>目的： アルコール関連障害 (Alcohol Use Disorders: AUDs)、薬物関連障害 (Drug Use Disorders: DUDs) と、禁煙率および喫煙再開率との関連を明らかにすること。</p> <p>方法： 対象は National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions の第 1 期に参加した喫煙者あるいは禁煙者であり、かつ 3 年後の第 2 期調査に参加した 11,973 名 (女性 46%)。第 1 期の情報をベースラインとし、第 2 期の時点の禁煙実施率・喫煙再開率を解析に使用した。</p> <p>結果： 第 1 期喫煙者の禁煙オッズ比 (95%信頼区間) は、AUD 有病群 0.70 (0.55 - 0.89)、AUD 過去有病群 0.73 (0.60 - 0.89)、DUD 有病群 0.48 (0.31 - 0.76)、DUD 過去有病群 0.62 (0.49 - 0.79) であった。いずれも AUD、DUD 非有病群より禁煙実施率が低値であった。第 1 期禁煙者の喫煙再開オッズ比は、AUD 有病群 2.26 (1.36 - 3.73)、DUD 有病群 7.97 (2.51 - 25.34)、DUD 過去有病群 2.69 (1.84 - 3.95) であった。AUD および DUD の診断と性別間の交互作用は有意ではなかった。</p> <p>結論： 過去・現在によらず、AUD および DUD の有病者は、非有病者に比較し禁煙実施率が低い傾向がみられた。また、現在 AUD 有病者および現在・過去の DUD 有病者は、非有病者に比較し喫煙再開率が高い傾向がみられた。</p>		